

遣唐使船
奈良へ

復原パーツ第1弾

平城宮跡会場へ到着

来年3月
完成予定
22日から組み立て開始

来年の平城遷都1300年祭主会場の平城宮跡会場（奈良市）で目玉展示物となる復原遣唐使船のパーツが17日、パーツを製作した静岡県内の造船所からトレーラーで同会場予定地の設置場所に到着した。パーツは甲板より下が7個で、この日は2個到着。19日までですべてそろい、22日以降、組み立てが本格化する。全体の完成は来年3月中旬の予定。

遣唐使船の復原事業
は平城遷都1300年
記念事業協会が担当。

パーツの製作は、古
静岡県松崎町の岡村造
代船の復原で全国唯一
船所で行われた。16日
の技術を持つとされる
に現地を2台のトレー



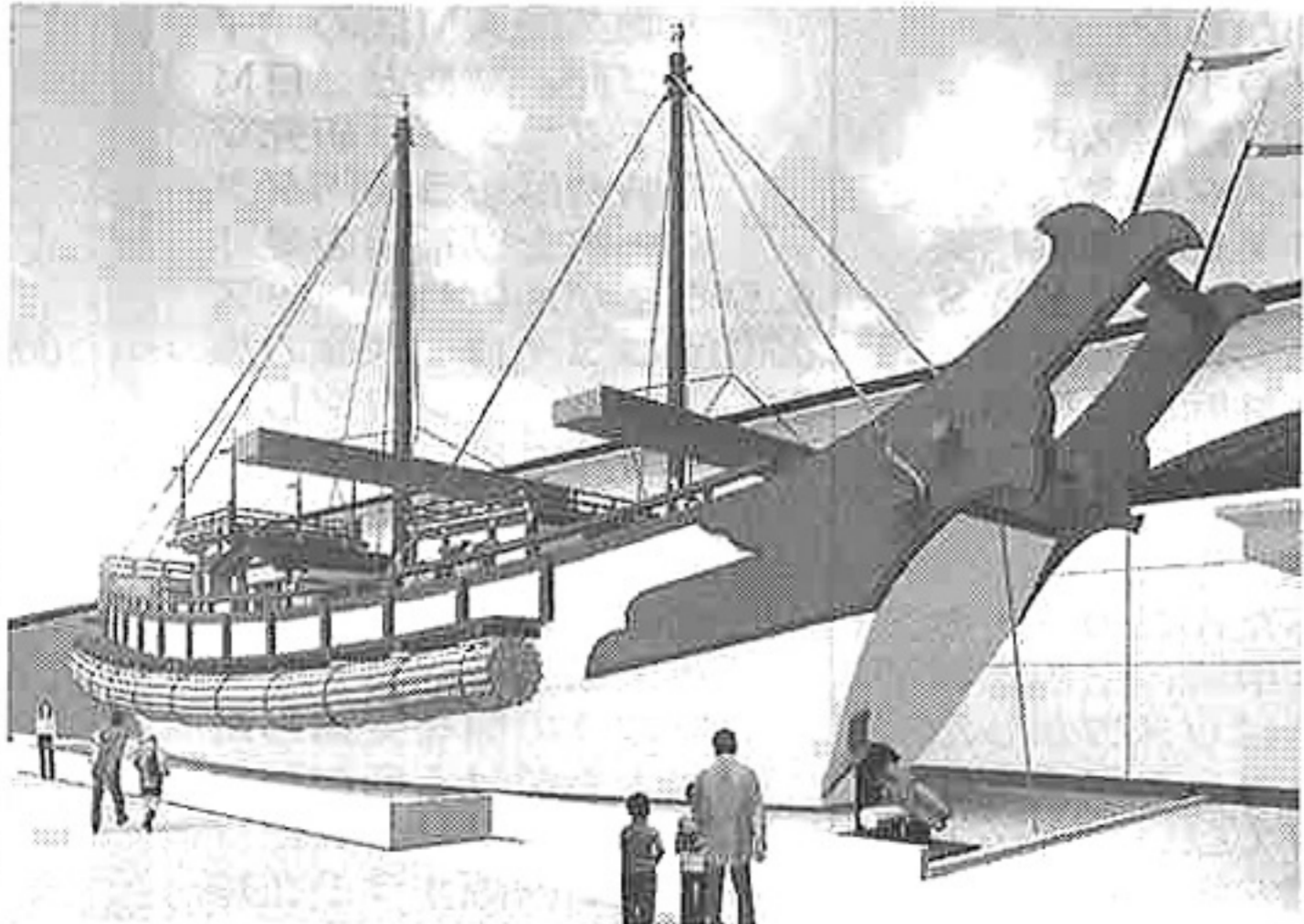
トレーラーからクレーンでつり上げられる遣唐使船のパーツ＝17日、奈良市の平城宮跡会場予定地で

ラーで出発し、17日午
前8時すぎ、朱雀門の
西南近くで県が建設中
の平城京歴史館北側に
到着した。

パーツは甲板より下
で、先頭・後尾部分を
除いたうちの後ろ部分
（長さ約9.5m、幅約8.5m）
の右舷、左舷の2個で、
杉材製。クレーンでつ
り上げられ、本来の組
み立て位置に据えられ
た。作業は約1時間半
で終わった。

18日は前部分の右舷
と左舷の2個、19日は
先頭・後尾部分の3個
が到着する。遣唐使船
の大きさは長さ約30m、
幅約10m、帆先まで船
底から約15mで、排水
量は約300ト。

同協会は来年1月下旬
ごろから甲板上部の
屋形やマストの設置を
行い、2月上旬ごろか
ら塗装工事を進める。



復原展示される遣唐使船の完成予想図（平
城遷都1300年記念事業協会提供）